

MVR-D2000

追補マニュアル

V3.0J



canopus

ご購入製品を使用される際の注意事項



ここでは、ご購入製品を使用されるときにご注意いただきたい事柄について説明しています。ご使用方法や、この内容について不明な点、疑問点などがございましたら、カノープス株式会社テクニカルサポートまでお問い合わせください。

カノープス株式会社

〒651-2241

神戸市西区室谷1-2-2(神戸ハイテクパーク)

テクニカルサポート

TEL.078-992-6830、FAX.078-992-2998

祝祭日及び弊社休日を除く月～金

10:00～12:00、13:00～17:00

製品のご利用についての注意事項



医療機器や人命に関わるシステムでは、絶対にご利用にならないでください。製品の性質上、これらのシステムへの導入は適しません。

製品の取り付けおよび取り外しに関する注意事項



製品の取り付けおよび取り外しを行う場合必ずパソコン本体および周辺機器の電源を切り、さらに電源ケーブルをコンセントから抜いた状態で行ってください。パソコン本体および周辺機器の電源を入れたまま製品を取り付けたり取り外したりした場合、製品やパソコン本体、周辺機器および周辺機器に接続されている機器の一部が破壊される恐れがあります。また、パソコン本体および周辺機器の電源ケーブルをコンセントから抜かずパソコン本体や周辺機器の筐体(電源ユニットなど)、機器の金属部分に触れた場合には感電する恐れがあります。

静電気に関する注意事項



製品に静電気が流れると製品上の部品が破壊される恐れがあります。各コネクタや部品面には直接手を触れないでください。

静電気は衣服や人体からも発生します。製品に触れる前に、一旦接地された金属製のものに触れてください(体内の静電気を放電することになります)。

消費電流に関する注意事項



複数の拡張ボードをパソコンに取り付けるときは、ご購入製品を含めたすべての製品の消費電流の合計がパソコンの最大供給電流を超えていないことを必ず確認してください。全ボードの消費電流の合計がパソコンの最大供給電流を超えたりするなどの動作条件を満たさない環境で使用し続けると、システムが正常に動作しない場合やシステムに負荷がかかり、パソコンが故障する原因となる恐れがあります。消費電流のわからない製品については、その製品の取扱説明書をご覧くださいか、メーカーに直接お問い合わせいただいております。

他社製品と併用される際の注意事項



他社製品と併用されるとご購入製品が正常に動作しないことがあり、そのためにシステムが本来の目的を達成することができないこともあります。あらかじめ、製品単体の環境で購入製品が正常に動作することをご確認ください。また、他社製品との併用によって購入製品が正常に動作しないのであれば、その他社製品と購入製品との併用はお止めください。

その他の注意事項



製品は指定された位置に指示通り取り付けてください。指示通りに取り付けられていない場合、製品の金属部分とパソコンの金属部分が接触してショートするなどの要因で、製品やパソコン本体・周辺機器が破壊される恐れがあります。

製品を取り扱うときは手など皮膚を傷つけないよう十分にご注意ください。ハードウェアの仕様上、製品のパネル、コネクタ、エッジ、裏面は金属のピンが、突出していることがあります。製品を取り付けたり取り外したりするときは、製品全体を軽く包み込むようにお持ちください。

動作中の製品は熱により非常に熱くなります。長時間使用した製品に手を触れる際には、十分にご注意ください。

ご注意

- (1) 本製品の一部または全部を無断で複製することを禁止します。
- (2) 本製品の内容や仕様は将来予告無しに変更することがあります。
- (3) 本製品は内容について万全を期して作成いたしました。万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気付きの事がございましたら、弊社までご連絡ください。
- (4) 運用した結果については、(3)項にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。
- (5) 本製品付属のソフトウェア、ハードウェア、マニュアル、その他添付物を含めたすべての関連製品に関して、解析、リバースエンジニアリング、デコンパイル、ディスアセンブリを禁じます。
- (6) カノープス、Canopusおよびそのロゴは、カノープス株式会社の登録商標です。
- (7) MVR-D2000はカノープス株式会社の商標です。
- (8) MS、Windowsは米国マイクロソフト・コーポレーションの登録商標です。また、その他の商品名やそれに類するものは各社の商標または登録商標です。

表記について

本書ではMicrosoft® Windows® operating system および Microsoft® Windows NT® operating systemをWindows、Windows NTと表記します。

本書はパソコンの基本的な操作を行うことができる方を対象に書かれています。特に記載の無い操作については、一般的なパソコンの操作と同じように行ってください。

本書での説明と実際の運用方法とで相違点がある場合には、実際の運用方法を優先するものとします。

本書に記載されていない情報が記載される場合がありますので、ディスクに添付のテキストファイル・オンラインマニュアルも必ずお読みください。

本書について

本書はMVR-D2000ユーザーズマニュアルV2.0Jとの相違点について記載した追補マニュアルです。MVR-D2000ユーザーズマニュアルV2.0Jと併せてお読みください。MVR-D2000 Development Kitの使用方法については、付属のMVR-D2000 Manual CD-ROM内のMVR-D2000 Development Kit Programmer's Manualをお読みください。

MVR-D2000
追補マニュアル
Version 3.0J
April 10,2000

Copyright © 2000 Canopus Co., Ltd.
All rights reserved.

目次

第1章 確認	1
1-1.使用許諾契約書について	2
1-2.追補マニュアルについて	2
1-3.お問い合わせについて	2
1-4.注意事項	3
著作権に関して	3
製品の運用結果に関して	3
1-5.動作環境の確認	4
パソコン本体	4
対応OS環境	4
グラフィックボード	4
第2章 セットアップ	5
2-1.ドライバのインストール	6
Windows 2000 ドライバのインストール	6
2-2.ソフトウェアのインストール	8
アプリケーション、開発キットのインストール	8
Acrobat Readerのインストール	10
2-3.MVR-D2000 プロパティ	11
起動方法	11
MVR-D2000 プロパティの設定	11
第3章 DV-MPEGファイルコンバータ	13
3-1.起動と各部の機能	14
起動方法	14
各部の機能	14
3-2.ファイルの変換	17
ファイル変換の手順	17

第4章 MPEG Station	25
4-1.各部の機能	26
再生モードの機能追加	26
キャプチャモードの機能追加	26
プログラム再生の機能追加	27
ファイル情報表示項目の追加	27
4-2.詳細エンコードパラメータ	28
概要	28
使用方法	28
第5章 Premiere Plug-in	29
5-1.概要	30
Premiere Plug-in (プラグイン) について	30
5-2.使用方法	31
Movie Compiler Module	31
Record Module	33

第1章

この章では、セットアップを行う前に確認していただきたい事項や、ご注意いただきたい事項について説明します。

確認

- ・ 使用許諾契約書について
- ・ 追補マニュアルについて
- ・ お問い合わせについて
- ・ 注意事項
- ・ 動作環境の確認

1-1. 使用許諾契約書について

弊社製品をご購入いただきありがとうございます。本製品をお使いいただくにあたって、まずはじめに付属のSupport Service Manualに記載の「ソフトウェア使用許諾契約書」をお読みください。本製品に付属のソフトウェアをお使いいただくには、ソフトウェア使用許諾契約書の内容にご同意いただく必要があります。ソフトウェア使用許諾契約書の内容にご同意いただけない場合や、ご不明な点がございましたら、本書以外のパッケージを開封せずに弊社テクニカルサポート（TEL.078-992-6830 FAX.078-992-2998）までご連絡ください。

なお、ソフトウェア使用許諾契約は、お客様がディスク入り封筒を開封された時点で契約内容にご同意いただけたものとさせていただきます。

1-2. 追補マニュアルについて

本追補マニュアルはMVR-D2000ユーザーズマニュアルV2.0Jとの相違点について補足説明したものです。MVR-D2000ユーザーズマニュアルV2.0Jと併せて必ずお読みください。

1-3. お問い合わせについて

本製品のお問い合わせは、お問い合わせ内容により以下の宛先までお問い合わせください。

製品のセットアップ・アプリケーションに関するお問い合わせ
カノープス株式会社テクニカルサポート
TEL：078-992-6830
（祝祭日を除く月～金曜日 10:00～12:00、13:00～17:00）
FAX：078-992-2998

開発キット・システムの導入に関するお問い合わせ
カノープス株式会社システム開発サポート
FAX：078-993-4776
e-mail：sdk@canopus.co.jp
電話による受付は行っておりません。

1-4. 注意事項

本製品をご使用の際は、以下の点にご注意ください。

著作権に関して

テレビ放送やビデオなど、他人の作成した映像をキャプチャした画像データは、動画、静止画に関わらず個人として楽しむ以外は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。また、個人として楽しむ目的であっても複製が制限されている場合があります。キャプチャした画像データのご利用に関する責任は弊社では一切負いかねますのでご注意ください。

製品の運用結果に関して

ご使用上の過失の有無を問わず、本製品の運用において発生した逸失利益を含む特別、付随的、または派生的損害に対するいかなる請求があったとしても、弊社はその責任を負わないものとします。

本製品を使用して他人の著作物(例:CD・DVD・ビデオグラム等の媒体に収録されている、あるいはラジオ・テレビ放送又はインターネット送信によって取得する映像・音声)を録音・録画する場合の注意点は下記の通りとなります。

著作権上、個人的又は家庭内において著作物を使用する目的で複製をする場合を除き、その他の複製あるいは編集等が著作権を侵害することがあります。収録媒体等に示されている権利者、放送、送信、販売元または権利者団体等を介するなどの方法により、著作者・著作権者から許諾を得て複製、編集等を行う必要があります。

他人の著作物を許諾無く複製または編集して、これを媒体に固定して有償・無償を問わず譲渡すること、またはインターネット等を介して有償・無償を問わず送信すること(自己のホームページの一部に組み込む場合も同様です)は、著作権を侵害することになります。

本製品を使用して作成・複製・編集される著作物またはその複製物につきましては弊社は一切責任を負いかねますので予めご了承ください。

1-5. 動作環境の確認

本製品をセットアップする前にパソコン本体がMVR-D2000を使用できる環境にあることを確認してください。

パソコン本体

下記の条件を満たすPC/AT互換機

ただし、下記の条件を満たす全てのパソコンでの動作を保証するものではありません。

- ・ Intel Pentium 266MHz以上のCPUを搭載
Intel社以外のプロセッサでの動作は保証いたしません。
- ・ 64MB以上のメモリを搭載(ファイル変換を行う場合は、96MB以上)
- ・ PCIバス(Ver.2.1以上)を搭載
- ・ CD-ROMドライブを搭載

対応OS環境

- ・ Microsoft Windows 2000日本語版
- ・ Microsoft Windows NT 4.0日本語版 + サービスパック4以降
- ・ Microsoft Windows 98 Second Edition日本語版
- ・ Microsoft Windows 98日本語版
- ・ Microsoft Windows 95(OSR 2)日本語版

グラフィックボード

- ・ 表示モード 640×480 16bit Color 以上
× 1サイズでオーバーレイ表示を行う場合は、800×600以上の解像度が必要です。
- ・ Direct DrawおよびDirect Draw Overlayに対応したグラフィックボード、ドライバが必要です。弊社製グラフィックボードでは以下の機種が対応製品になります。
SPECTRA 7400 DDR・SPECTRA 7400
SPECTRA 5400 Premium Edition・SPECTRA 5400R2・SPECTRA 5400
SPECTRA 3200R2・SPECTRA 3200R2 PCI・SPECTRA 3200
SPECTRA 3200PCI・SPECTRA 2500
ZXR128A GTS・ZXR128P GTS
PWR128A GTV・PWR128A GTS・PWR128P GTV・PWR128P GTS
PWR128P/4VC・PWR128P
Power Window GX/4VC・Power Window DX/4MC・Power Window DX

第2章

この章では、MVR-D2000ユーザーズマニュアルの第 2 章「セットアップ」の項との相違点について補足説明します。

セットアップ

- ・ドライバのインストール
- ・ソフトウェアのインストール
- ・MVR-D2000 プロパティ

2-1. ドライバのインストール

Windows 2000 ドライバのインストール

Windows 2000でドライバのインストールを行うには、システム設定の変更を行える資格を持つID(Administratorなど)でログオンする必要があります。あらかじめシステム設定の変更を行える資格を持つIDでログオンしてからインストール作業を行ってください。また、Windows 2000で使用する場合は、Windows 95/98 と同様、この作業を行った後にアプリケーションのインストールを行ってください。

Note ここでインストールを行うドライバは「Windows 2000 WDM ドライバ試用版」(2000年4月現在)となります。お使いの環境と本ドライバとの組み合わせに於いて動作がおかしくなるなどの現象が発生する場合は、MVR-D2000 Drivers,Utilities and SDK Disk1 に含まれる WdmReadme.TXT 内の 3.NTドライバのインストールを参照し、Windows NT 4.0 ドライバでご使用ください。

- 1 Windows 2000 に新たに MVR-D2000 を装着し、起動すると、「新しいハードウェアが見つかりました」画面に続いて「新しいハードウェアの検索ウィザードの開始」画面が表示されますので「次へ」をクリックします。
- 2 「ハードウェア デバイス ドライバのインストール」画面で「デバイスに最適なドライバを検索する」を選択し、「次へ」をクリックします。



- 3 「ドライバファイルの特定」画面が表示されますので「検索場所のオプション」から「場所を指定」にのみチェックし、「次へ」をクリックします。
- 4 MVR-D2000 Drivers,Utilities and SDK Disk1をフロッピードライブにセットし、「製造元のファイルのコピー元」に A:¥Win2k.WDMフォルダを指定して「OK」をクリックします。「参照」をクリックして指定することもできます。

Note ここではフロッピードライブを A ドライブと想定しています。

- 5 「ドライバ ファイルの検索」画面でモデル一覧に「MVR-D2000 Kernel Mode Driver for Windows 2000」が表示されていることを確認し、「次へ」をクリックします。



- 6 「デジタル署名が見つかりませんでした」画面が表示されますが、「はい」をクリックします。



ファイルのコピーが始まり、「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」画面が表示されるとドライバのインストールは完了です。

Note 「ディスクの挿入」画面が表示された場合は、「OK」をクリックし、再度 4.で指定したフォルダを設定してください。

- 7 「完了」をクリックすると「システム設定の変更」画面が表示されますので、「はい」を選択し、画面の指示にしたがって Windows 2000 の再起動を行ってください。



MVR-D2000 を既にお使いの環境に Windows 2000 をインストールされる場合は、MVR-D2000 Drivers, Utilities and SDK Disk1 に含まれる WdmReadme.TXT 内の 2.WDM ドライバのインストール - 2.2 MVR-D2000 を装着したまま Windows 2000 をインストールした場合を参照し、インストール作業を行ってください。

2-2. ソフトウェアのインストール

アプリケーション、開発キットのインストール

Windows NT/Windows 2000でインストールを行うには、システム設定の変更を行える資格を持つID(Administratorなど)でログオンする必要があります。あらかじめシステム設定の変更を行える資格を持つIDでログオンしてからインストール作業を行ってください。また、Windows NTで使用する場合は、この作業を行うことでドライバも同時にインストールされます。

- 1 MVR-D2000 Drivers,Utilities and SDK Disk1 をフロッピードライブにセットし、マイコンピュータからフロッピードライブを開き、[Setup.exe] をダブルクリックします。
- 2 「ようこそ」画面が表示されますので、[次へ] をクリックします。



- 3 インストール先のフォルダを選択し、[次へ] をクリックします。



Note インストール先のフォルダを変更する場合には、[参照] をクリックし、インストールするフォルダを選択するか、フォルダ名をキー入力します。

4 インストールするコンポーネントを選択して [次へ] をクリックします。



- Driver and Application
MVR-D2000のドライバとキャプチャ、再生を行うアプリケーション(MPEG Station)をインストールします。Windows 98/95にインストールする場合は、「Application」と表示され、選択するとキャプチャ、再生を行うアプリケーション(MPEG Station)をインストールします。
- DV to MPEG Converter
DV形式のAVIファイルをMPEGファイルにコンバートするアプリケーションをインストールします。このコンポーネントをインストールした場合、ドライバの確保するメモリが約3.7MB増加します。
- Development Kit
MVR-D2000をコントロールするアプリケーションの開発キットをインストールします。
- Premiere Plug-in
Premiere 5.xからMVR-D2000を利用したキャプチャや編集したデータのMPEGファイルへのエンコードを行うプラグインをインストールします。

Note 開発キットのみをインストールする場合は、あらかじめドライバ、アプリケーションがインストールされている必要があります。

5 以下の画面が表示されますので、通常はそのまま [次へ] をクリックします。

ファイルコピーが開始されます。ディスクの入れ替えを要求するメッセージが表示された場合は、メッセージに従ってディスクを入れ替えてください。



Note アプリケーションのショートカットを登録するフォルダ名を変更したい場合は、メニューから選択するか、フォルダ名をキー入力します。

- 6 以下のウィンドウが表示されますので、[完了]をクリックします。
コンピュータが再起動します。



Note 「いいえ、後でコンピュータを再起動します」を選択した場合は、必ず手動（[スタート]-[シャットダウン]-[コンピュータを再起動する]を選択します）でコンピュータを再起動してください。なお、開発キットのみをインストールした場合はこの画面は表示されず、別のインストール完了の画面が表示されますので、その画面内の[完了]をクリックしてください。

以上でMVR-D2000を使用する準備が完了しました。開発キットを使用する場合は、MVR-D2000ユーザーズマニュアルをご参照の上、引き続き「Acrobat Readerのインストール」へ進んでください。

Acrobat Readerのインストール

付属Acrobat Readerのモジュールが変更されていますので、フォルダ内のプログラム名を [ar40jpn] から [ar405jpn] へ読み替えてください。

2-3.MVR-D2000 プロパティ

起動方法

[スタート]ボタンをクリックして、[プログラム] [MVR-D2000]と進み、[MVR-D2000 プロパティ]を選択するとMVR-D2000 プロパティが起動します。使用するOS およびドライバによって表示される画面が異なります。

<Windows 95/98/NT 4.0/Windows 2000をWindows NT 4.0ドライバでお使いの場合>



<Windows 2000をWindows 2000 WDMドライバでお使いの場合>



MVR-D2000 プロパティの設定

- 1 MVR-D2000 プロパティウィンドウにある[デバイス]または[電源の管理]をクリックします。
 2. デバイス プロパティウィンドウが表示されます。
 3. 電源の管理 プロパティウィンドウが表示されます。

Note MVR-D2000 Ver3.00 から MVR-D2000 Series ハードウェアを複数枚装着し、開発キットを用いて動作させることが可能となります。複数枚装着時には、MVR-D2000プロパティにも複数表示されます。

2 MVR-D2000で使用するデバイス機能の設定を行ってください。



- ・キャプチャ/プレイバック/モニター
MVR-D2000 Seriesではこれらの設定変更を行うことはできません。

- ・AVファイルをMPEGに変換する

製品同梱のアプリケーション「DV-MPEG ファイルコンバータ」を使用してDV形式のAVIファイルをMPEGファイルに変換する場合にチェックをつけます。チェックがついている場合、ドライバが確保するメモリが3.7MB増加します。「DV-MPEG ファイルコンバータ」を使用しない場合、チェックをはずすことでドライバが確保するメモリを減らすことができます。チェックをはずした状態では「DV-MPEG ファイルコンバータ」は使用できません。

3 MVR-D2000で使用する電源管理機能の設定を行ってください。(WDMドライバ使用時のみ)



- ・無効化する

電源管理を実行しません。

- ・Windows 2000に準拠する

Windows 2000 Device Driver Kit (build 2195)に準拠したpower policy ownerとして動作します。

- ・Windows 98 WDMに準拠する

Windows 98 Device Driver Kit(ないしは、Windows 2000 Release Candidate 2 Device Driver Kit)に準拠したpower policy ownerとして動作します。

Note WDMドライバのインストール直後には、「Windows 2000に準拠する」が設定されています。Windows 2000のシャットダウン/再起動/スタンバイ～復帰が正常に動作しない場合は、電源の管理方法を「Windows 98 WDMに準拠する」に変更して試してみてください。それでもうまく行かない場合は、電源の管理方法を「無効化する」に変更して試してみてください。

4 設定後、[OK]をクリックするとMVR-D2000 プロパティウィンドウに戻ります。

MVR-D2000 プロパティウィンドウの[OK]をクリックするとウィンドウが閉じます。

以上でMVR-D2000 プロパティの設定は終了です。

第3章

この章では、DV-MPEG ファイルコンバータの使用方法について説明します。

DV-MPEG ファイルコンバータ

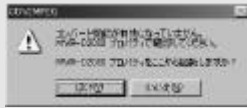
- ・ 起動と各部の機能
- ・ ファイルの変換

3-1. 起動と各部の機能

起動方法

[スタート]ボタンをクリックして、[プログラム] [MVR-D2000]と進み、[DV-MPEGファイルコンバータ]を選択するとDV-MPEGファイルコンバータが起動します。

MVR-D2000 プロパティの設定(追補マニュアルp.12 参照)において「AVI ファイルをMPEG に変換する」の項目にチェックがついていない場合、DV-MPEG ファイルコンバータ起動時に以下のメッセージが表示されます。設定変更後、パソコンの再起動を行ってから DV-MPEG ファイルコンバータを起動し直してください。



各部の機能

[DV-MPEGファイルコンバータ]を起動すると以下の画面が表示されます。



Note 画面は ボタンをクリックした状態のもので、画面は説明用ですので実際に表示される画面とは異なります。

変換元ファイルを指定します。

Note エクスプローラからのドラッグ&ドロップでも入力できます。

変換元ファイルのプレビューを行うためのメニューを表示します。

Note お使いのパソコン環境によりメニューの表示内容は異なります。

ボタンをクリックすると開始フレーム及び終了フレームを指定するためのウィンドウが拡張表示されます。 ボタンをクリックすると元の画面に戻ります。

数値を直接入力するか、スライダを使用して開始フレームを指定します。

数値を直接入力するか、スライダを使用して終了フレームを指定します。

バージョン情報を表示します。

ファイル変換を行うためのウィザードを開始します。

DV-MPEGファイルコンバータを終了します。

複数ファイルをコンバートする場合の「ファイルリストを使用する」選択時に指定します。



Note 開始フレーム及び終了フレームのプレビュー画面上でダブルクリックした場合、フレームリストを表示します。 ボタンをクリックすると表示するフレームを前後させることができます。また、リスト上にある画面を左クリックすることで、フレームの指定を行うことができます。




開始フレーム及び終了フレームのプレビュー画面上で右クリックした場合、該当フレームのキャプチャを行えます。[ビットマップのコピー]を選択すると、該当するフレームの画面キャプチャがクリップボードに転送されます。[ビットマップの保存]を選択すると、該当するフレームの画面キャプチャをファイルとして保存することができます。また、プレビュー画面上で左ドラッグし、デスクトップ上でドロップすることでも該当フレームの画面キャプチャをファイルとして保存できます(但しこの場合、ファイル名は自動的に割り当てられます)。





3-2. ファイルの変換

ファイル変換の手順


- 1 [映像]もしくは[音声]フィールドに変換元のファイル名を直接入力するか、 ボタンをクリックしファイル名を指定する、またはエクスプローラから直接ファイルをドラッグ&ドロップしファイルを指定します。



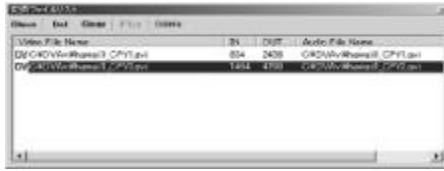
Note 音声があらかじめキャプチャされたDV形式AVIのファイル変換を行う場合は、[音声は映像と同じファイルを使用]にチェックをつけてください。
変換元のファイルのプレビューを行う場合は、 ボタンをクリックしてください。

- 2 ファイルの一部分だけを変換する場合は、 ボタンをクリックしてください。スライダを使用し、開始フレーム及び終了フレームを指定し、[コンバート]をクリックします。ファイル全体をコンバートする場合は、ファイル選択後、[コンバート]をクリックし、4に進んでください。



Note  ボタンをクリックすると手順1の画面に戻ります。

- 3 複数のファイルを連続してコンバートする場合は、システムメニュー（P.14 DV-MPEG ファイルコンバータ画面の をクリックする）から [ファイルリストを使用する] を指定し、 [変換ファイルリスト] を起動します。



[変換ファイルリスト] へのファイルの登録は、2 でファイルを指定後、 [追加] をクリックします。

Note [変換ファイルリスト] を起動させると、 [コンバート] ボタンが [追加] ボタンに変わります。

Note IN点、OUT点などの表示幅はマウスでクリックすることで調整できます。

- Close
ファイルリストを閉じます。終了時には登録されている情報は破棄されます。
- Del
ファイルリスト上の選択されているアイテムを破棄します。
- Clear
ファイルリストのアイテムをすべて破棄します。
- Play
変換後のファイルを再生して確認します。
- Conv
ファイルリストのアイテムを順番に変換します。変換が正常に終了した場合、アイコンがOKになります。失敗した場合にはNGになります。
- アイテム上での右クリック
選択しているアイテムだけを変換します。
- アイテム上でのダブルクリック
選択しているアイテムをメインの画面上で表示します。メインの画面上で開始フレーム、終了フレームを変更した場合、「追加」ボタンで再度登録する必要があります。

Note エクスプローラから複数のファイルをドラッグ&ドロップでリストに追加することができます。メインの画面に複数のファイルをドラッグ&ドロップした場合は、自動的に [変換ファイルリスト] が起動します。

4 ファイル変換後に作成されるMPEGファイル形式を指定します。



- MPEG1 システム ストリーム
映像と音声を多重化して1つのファイルに記録します。
- MPEG1 エレメンタリ ストリーム
ビデオとオーディオをエンコードしてそれぞれ別個のファイルとして同時に記録します。[映像]もしくは[音声]を指定することで映像または音声を単独でエンコードできます。[Waveファイルとして保存]にチェックを入れた場合は、映像をエンコードし、音声は非圧縮のPCMデータとしてそれぞれ別個のファイルに同時に記録できます。
- MPEG2 プログラム ストリーム
ビデオとオーディオを多重化して1つのファイルに記録します。
- MPEG2 エレメンタリ ストリーム
ビデオとオーディオをエンコードしてそれぞれ別個のファイルとして同時に記録します。[映像]もしくは[音声]を指定することで映像または音声を単独でエンコードできます。[Waveファイルとして保存]にチェックを入れた場合は、映像をエンコードし、音声は非圧縮のPCMデータとしてそれぞれ別個のファイルに同時に記録できます。
- Video CD
Video CD形式に準拠したMPEG1ファイルを作成します。音声のサンプリングレートが44100Hzで記録されていないデータの場合、この項目は選択できません。

設定後、[次へ]をクリックします。

5 ビデオデータに関する設定を行います。



Video CDを選択した場合



Note 変換するファイル形式により表示画面は異なります。

Video CD形式を選択した場合、手順5において次頁に記載されているオーディオに関する設定を行います(設定項目の説明については次頁参照)。

- ・ビットレート

ビデオデータのビットレートと符号化形式を設定します。ビデオビットレートは400bps単位で設定します。400bps単位で指定しなかった場合は自動的に400bps単位の設定値に変更されます。ビットレートを高くすると画質は良くなりますが、ファイルサイズが大きくなります。ビデオデータの符号化形式はCBR、VBRのいずれかに設定します。VBRを選択した時のみ、最大ビットレート(400bps単位)も同時に設定することができます。

- ・GOPパターン

GOPパターンをI Flame (Iピクチャのみで構成されるGOP)、IBBP (I/B/Pの3つのピクチャから構成されるGOP)のいずれかに設定し、以下のパラメータを設定することができます。

- ・ピクチャ枚数

GOP内に含まれるピクチャ枚数を1~30の範囲で設定します。I Flame選択時にはピクチャ枚数は1に固定されます。

- ・周期

IもしくはPピクチャが現れる周期を1~3の範囲で設定します。I Flame選択時には周期は1に固定されます。

- ・GOP完結 (音声のサンプリングレートが48000Hzの場合は、設定可能)

この設定を行うと、1つのGOP分のビデオデータとそれに付随するオーディオデータを格納するパックの集まりを1つの単位とし、その中で1つのGOPが完結します。作成するファイルの種類がMPEG1の場合は表示されません。

- ・Closed GOP

GOP内の画像が他のGOPから独立して再生可能なことを示すClosed GOPフラグを設定します。

- ・プロファイルとレベル

プロファイルとレベルを設定します。作成するファイルの種類がMPEG1の場合は表示されません。

- ・画像サイズ

キャプチャファイルの画像サイズを設定します。ファイル形式としてMPEG1を選択した場合は、コンボボックスは表示されません。

設定後、[次へ]をクリックします。

6 オーディオデータに関する設定を行います。



Note 変換するファイル形式により表示画面は異なります。

Video CD形式を選択した場合、前頁に記載されている手順5においてオーディオに関する設定を行います。

- ・サンプリングレート
オーディオ信号のサンプリングレートが表示されます。
- ・ビットレート
オーディオデータのビットレートを設定します。ビットレートを高くすると音質は良くなりますが、ファイルのサイズが大きくなります。
- ・形式
オーディオデータの形式を設定します。「Layer2」以外の形式は選択できません。
- ・チャンネル
オーディオチャンネルの種類を設定します。
- ・エンファシス
エンファシスエンコードを行う場合に設定します。
- ・プロテクション
CRCエラーの検出が行えるファイルを作成する場合にチェックをつけます。
- ・オリジナル
オリジナルビットをつけたファイルを作成する場合にチェックをつけます。
- ・コピーライト
著作権情報をつけたファイルを作成する場合にチェックをつけます。

設定後、[次へ]をクリックします。

7 データの出力に関する設定を行います。



Note 変換するファイル形式により表示画面は異なります。

・映像ファイル

変換するファイル形式がMPEG1 エレメンタリストリームもしくはMPEG2エレメンタリストリームの場合は、変換後に作成される映像ファイル名(パス名も含む)をフィールドにキー入力できます。[ドライブ参照]及び[ファイル参照]のボタンが有効になります。

・音声ファイル

変換するファイル形式がMPEG1 エレメンタリストリームもしくはMPEG2エレメンタリストリームの場合は、変換後に作成される音声ファイル名(パス名も含む)をフィールドにキー入力できます。[ドライブ参照]及び[ファイル参照]のボタンが有効になります。

・MPEGファイル

変換するファイル形式がMPEG1 システムストリーム、MPEG2 プログラムストリームもしくはVideo CDの場合は、変換後に作成されるファイル名(パス名も含む)をフィールドにキー入力できます。[ドライブ参照]及び[フォルダ参照]のボタンが有効になります。

・出力フォルダ

[出力フォルダを指定する]にチェックをつけた場合、変換後のファイルを任意のフォルダ内に作成することができます。出力するフォルダを指定してください。この場合、アクティブ状態のフィールドにはファイル名のみ(ファイル名のキー入力も可能)が表示されます。[ドライブ参照]及び[フォルダ参照]のボタンが有効になります。

・プレビュー

変換作業中にプレビュー画面の表示を行う場合は、チェックをつけてください。

Note 複数ファイル変換時には出力フォルダのみの指定となり、ファイル名の設定は行えません。自動的にソースファイル名の拡張子だけ変更したファイルが作成されます。

また、同名のファイルが存在する場合は、無条件に上書きを行います。

8 [コンバート]をクリックします。

ファイルの変換を開始します。



9 ファイルのコンバートが終了しました。

コンバートされたファイルを再生する場合は、[再生]ボタンをクリックします。

DV-MPEGファイルコンバータを終了する場合は、[完了]ボタンをクリックします。



以上でファイルの変換作業は完了です。

Note 複数ファイル変換時には、変換後のファイル名およびファイルサイズは表示されません。

変換後のファイル再生は、この終了画面からではなく、[変換ファイルリスト]から Play を選択してください。

第4章

この章では、MPEG Stationの使用
方法について説明します。

MPEG Station

- ・各部の機能
- ・詳細エンコードパラメータ

4-1. 各部の機能

再生モードの機能追加 (MVR-D2000 ユーザーズマニュアル p.34)

再生モードに再生開始位置を変更するスライダーを追加しました。スライダー追加に伴い、再生ファイル名の表示位置も変更しました。



Note ロングファイルネーム使用時などはファイル名表示が途中でしな行なわれません。マウスカーソルをファイル名の上に持ってゆき、チップヘルプから確認してください。

キャプチャモードの機能追加 (MVR-D2000 ユーザーズマニュアル p.30)

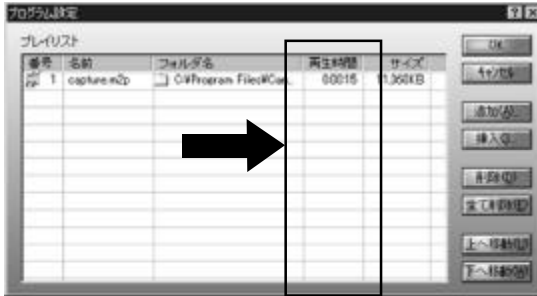
キャプチャモードにキャプチャファイル名の表示を追加しました。



Note ロングファイルネーム使用時などはファイル名表示が途中でしな行なわれません。マウスカーソルをファイル名の上に持ってゆき、チップヘルプから確認してください。

プログラム再生の機能追加 (MVR-D2000 ユーザーズマニュアル p.49)

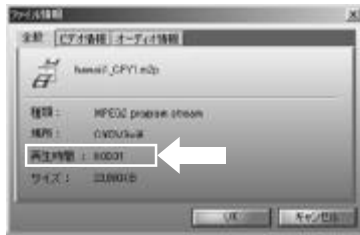
プログラム設定画面に再生時間の表示を追加しました。



Note 選択項目を右クリックすると [ファイル情報] 画面が表示されます。

ファイル情報表示項目の追加 (MVR-D2000 ユーザーズマニュアル p.55)

ファイル情報に再生時間の表示を追加しました。



4-2. 詳細エンコードパラメータ

概要

MVR-D2000 Ver3.00 から MPEG Station を使ったエンコード時、アプリケーションの標準の設定画面では設定できない詳細なパラメータを、詳細エンコード・パラメータ設定ファイルを使用して設定することができるようになりました。なお、このパラメータ設定には専門的な知識を必要とします。専門知識をお持ちでないユーザー様は、一般的なパラメータが設定されているデフォルトの状態でのご使用をお勧めします。

使用方法

次の起動オプションを付加し、MPEG Station を起動ください。

Mstation.exe /VEP ファイル名

/VEP 詳細エンコードパラメータを有効にするためのスイッチ
ファイル名 詳細エンコードパラメータが記述されているファイル名

Note 詳しいコマンドの説明やパラメータの説明は、MVR-D2000 モジュールをインストールしたフォルダ（デフォルトは Program Files-Canopus-MVR-D2000）にある VideoEncoderParams.TXT を参照ください。

第5章

この章では、MVR-D2000に付属の Premiere Plug-in の使用方法について説明します。

Premiere Plug-in

- ・ 概要
- ・ 使用方法

5-1. 概要

Premiere Plug-in (プラグイン) について

MVR-D2000 Version 3.00 では Premiere 5.x用のプラグインが付属されています。付属のPremiereプラグインは次の2種類です。

1 . Movie Compiler Module

Premiereで編集したデータをMVR-D2000を利用してMPEGファイルにエンコードします。DV-MPEG ファイルコンバータと同等のパラメータ設定が行えます。

2 . Record Module

Premiere上でMVR-D2000を利用したキャプチャが行えます。MPEG2でのキャプチャも行えますが、Premiere が MPEG1 にのみ対応しているため、デフォルトではMPEG1でのキャプチャを行います。

Note Premiereプラグインを使用する場合は、必ずMVR-D2000のセットアップを行う前にPremiereのインストールを行ってください。

Note MPEGパラメータの設定画面の説明については、DV-MPEGファイルコンバータのマニュアル、MPEG Stationのマニュアルを参考にしてください。

5-2. 使用方法

Movie Compiler Module

- 1 編集後、出力したい場所を選択し、
「ファイル」 - 「出力」 - 「ムービー」
「ファイル」 - 「出力」 - 「オーディオ」
を指定し、出力ファイル設定画面を表示します。



- 2 「設定...」を指定し、「出力設定」画面を表示します。



- 3 出力設定 - 「ファイルの種類」が Canopus MPEG Encoder になっていることを確認します。
- 4 「詳細設定」を指定し、パラメータを設定します。
- 5 「OK」を指定し、エンコードの準備は完了です。

6 1の画面のファイル名欄に出力したいファイル名（拡張子も含む）を入力します。

7 「保存」を指定すると、設定内容を確認するウィザードが開始され、ウィザード終了と共にエンコードが開始されます。

MPEG 2 ファイル出力時の注意事項

「ムービー出力設定」-「キーフレームとレンダリングオプション」-「フィールド設定」を指定し、出力元の映像フォーマットに応じたフィールド（フレーム単位で見た場合の一番上のライン）設定を正しく行ってください。この設定が正しく行われていない場合、出力したMPEG2 ファイルを再生する際（特にTVでご覧いただく場合に顕著に現われます）にフィールドの表示順序が入れ替わり、映像の横方向に動く部分が、ガクガクした動きとなります。

一番上のラインがODDフィールドである場合、

「上位フィールドから」を指定してください。

一番上のラインがEVENフィールドである場合、

「下位フィールドから」を指定してください。

出力元の映像が Canopus DV 形式、または Canopus Motion JPEG 形式である場合には、一番上のラインはEVENフィールドとなりますので、「下位フィールドから」を指定してください。

出力元の映像がフィールド構造を持たない場合（縦方向の解像度が240以下のAVIファイルやMPEG1ファイルの場合など）は、「上位フィールドから」を指定してください。

Note 「キーフレームとレンダリングオプション」の設定ダイアログは、プロジェクト設定の中にもあります。プロジェクト設定側の設定を変更しても、上記の動作に効果は反映されませんのでご注意ください。

「ファイル」-「出力」-「ムービー」を指定し、「設定」ボタンをクリックした時に表示されるダイアログで設定してください。

Record Module

- 1 「プロジェクト」 - 「設定」 - 「キャプチャ」を指定し、設定画面を表示します。



- 2 「キャプチャ形式」が Canopus MPEG Encoder になっていることを確認します。
- 3 「MPEG Option」を指定し、パラメータを変更することができます。変更されない場合は、そのまま4へ進んでください。
- 4 「OK」を指定し、キャプチャの準備は完了です。
- 5 「ファイル」 - 「キャプチャ」 - 「ムービーキャプチャ」を指定するとキャプチャが開始されます。
なお、「ストップモーション」には対応していません。

